

～出会い、発見、ゆめ体験 in 御五神島！～

1 事業のねらい

子どもたちが、無人島という制約された環境の中で、自ら創意工夫し、協力し合いながら自然体験活動・生活体験活動に取り組むことにより、自立心や協調性などの社会性を育むとともに、困難なことに直面しても克服できる柔軟で強い精神力を養う。

2 事業の概要

- (1) 対象 小学5年生～中学3年生（42名）
 (2) 参加費 25,000円
 (3) 日程

月日（曜日）	活動内容	場所
7月28日（日）	開会式、オリエンテーション、アイスブレイキング、テント設営等実習、班別活動計画作成	大洲青少年交流の家
29日（月）	竹食器製作、生活資材仕分け、荷造り	大洲青少年交流の家 下灘公民館
30日（火）	御五神島入島、開村式、テント設営	御五神島（無人島）
31日（水）	生活用品作り（食器だな、洗濯干場等）、海水浴	御五神島（無人島）
8月1日（木）	食事作り、シュノーケリング、釣り、星空観察	御五神島（無人島）
2日（金）	食事作り、シュノーケリング、釣り	御五神島（無人島）
3日（土）	自給自足的生活体験、テントサイトコンテスト	御五神島（無人島）
4日（日）	資材整理、スタンプ練習、キャンプファイヤー	御五神島（無人島）
5日（月）	撤収作業、離島、資材整理	御五神島（無人島） 大洲青少年交流の家
6日（火）	感想文作成、閉会式、記念撮影	大洲青少年交流の家

(4) 参加状況

上記の事業概要にて、県内すべての小中学校に募集案内を配布し、5月末から一ヶ月間参加者を募集したところ、19市町から男子127名、女子25名、合計152名の応募があり、抽選により男子30名、女子12名が平成25年度「御五神島・無人島体験事業」に参加することとなった。

(5) 実施にあたって

- ① 島内に生息するイノシシに対しては、電気防護ネットの設置や不寝番の配置、イノシシへの正しい対応法の指導、食材や残飯の適切な管理等により参加者の安全確保に努めた。
- ② 子どもたちへの指導に加え、イノシシ不寝番の配置等、安全管理体制をより充実させるために、小中学校の教員15名が指導者として参加した。
- ③ 昨年度に続き、愛媛大学教育学部の「地域連携実習」により、6名の学生が指導者として参加し、サブリーダーとして子どもたちの指導にあたった。
- ④ 小学生の時に参加し、現在小学校の講師をしている女性1名が、ボランティアとして参加した。

3 活動の記録

○ 7月28日（国立大洲青少年交流の家での活動）

開会式後、グループに分かれて自己紹介や指導者によるアイスブレイキングを行う。その後、雨天のため武道場においてロープワークやテント設営実習を行った。



(開 会 式)



(参加者あいさつ)



(テント設営実習)

○ 7月29日(国立大洲青少年交流の家での活動)

午前中は、御五神島で使用する竹食器の製作やタープ設営実習を行った。午後からは、各班が使用する資材を確認し、コンテナに梱包した。夕食・入浴後、宇和島市の下灘公民館へ移動した。



(竹食器作り)



(荷物運び)



(下灘公民館で就寝準備)

○ 7月30日(御五神島へ入島、無人島体験の開始)

3隻の船にたくさんの資材や食材を乗せ、嵐港を出港。御五神島に到着後、全員で荷物を運び、開村式を行った。そして、島での生活が始まった。



(嵐港を出港)



(開 村 式)



(タープ設営)

○ 7月31日～8月4日(御五神島での生活)

三度の食事は自分たちで作った。そして、テントサイトコンテストや自給自足の日、キャンプファイヤー等を行った。その中で、自然に協力体制や役割分担ができ、さまざまな工夫が生まれた。



(食事作り)



(海 水 浴)



(シュノーケリング)



(冷たい井戸水)



(自給自足的な生活)

(きれいになったテントサイト)



(真剣なまなざし)

(テントサイトコンテストの表彰)



(ヨモギの天ぷら)



(おいしかったスイカ)



(島で最後の食事)



(キャンプファイヤー)

○ 8月5日 (御五神島を離島し、国立大洲青少年交流の家へ)

早朝より撤収し、閉村式を行い、御五神島を離れた。途中、温泉に寄り、一週間の汚れを落とした。午後からは国立大洲青少年交流の家にもどり、テントやシート、道具類の片付けを行った。



(荷物運び)



(閉村式)



(帰りの船の中)

○ 8月6日 (最終日、大洲青少年交流の家で事業の振り返り)

事業について振り返り、感想文をまとめた。そして、いよいよ最後の閉会式。修了証を参加者に渡し、記念写真を撮影。別れを惜しみながら帰途に就いた。



(参加者代表あいさつ)



(修了証授与)



(記念写真撮影)

4 「生きる力」の変容

本事業が、参加者の「生きる力」の変容に及ぼす効果を明らかにするために、国立青少年教育振興機構より提供された『「生きる力」の測定・分析ツール』を使用し、調査を実施した。調査は、事業初日7月28日の開会式後(事前)と最終日8月6日の感想文作成の前(事後)の2回行ない、有効回答数は42(参加者42名)であった。

★ 分析結果

「生きる力」の変容

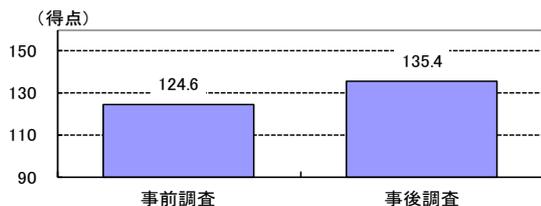


図1. 「生きる力」の平均値の推移

「心理的社会的能力」の変容

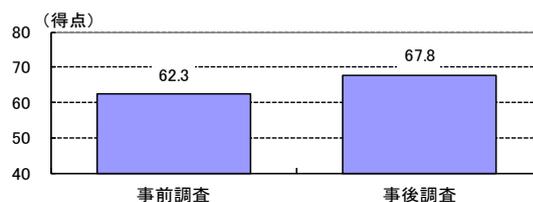


図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

「徳育的能力」の変容

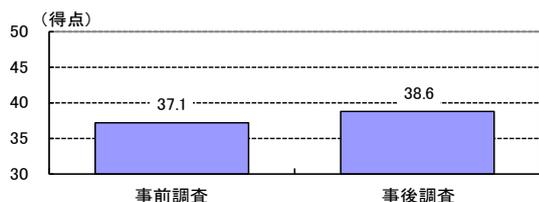


図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

「身体的能力」の変容

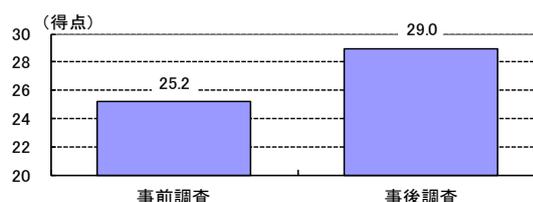


図4. 「身体的能力」の平均値の推移

事前と事後では、「生きる力」が10.8ポイント向上し、島での3不の生活（不自由・不便・不足）は、参加者の「生きる力」の変容に影響を与えたと言えるであろう。

今回で3回目の調査となったが、いずれも「生きる力」について10ポイント以上向上している。今後とも調査を継続し、本事業が参加者の「生きる力」に与える影響を検証していきたい。

5 成果と課題

事業最終日に書いた参加者の感想文を読むと、本事業は子どもたちに対して「仲間や協力することの大切さ」「便利な日常生活のありがたさ」「家族のありがたさ」等、普段はなかなか意識することのできない様々な気づきを提供することができた。事前事後のアンケート調査の結果からも、無人島での3不（不自由・不便・不足）の生活は、参加者の「生きる力」の変容に影響を与えたと言えるであろう。

また、参加した教員や愛媛大学教育学部の学生の感想文にも、「子どもたちの成長や変容」「教師のあるべき姿勢」「子どもとの触れ合いの中での感動体験」等について綴られており、野外生活体験を通じたよりよい研修の機会になっていると考えられる。また、「便利な日常生活のありがたさ」についての記述も多く、大人にとっても普段の生活を見直す機会となったようだ。

今後とも、愛媛の子どもたちに豊かな体験活動を提供できるよう、熱中症や事故・ケガの防止、イノシシ対策等の安全・衛生管理の徹底、水や食材、キャンプ資材の見直し等を行い、効率的な事業の運営を行うとともに、指導者やボランティアの継続的な確保に努めていきたい。

なお、昨年度に続き、南海放送とNHKから取材を受け、南海放送では夕方のニュース番組で2回シリーズにて、NHKでは「にっぽん紀行」という25分間の全国番組として放送された。